

東京華僑総会が国慶祝賀会

孔鉉佑公使、加藤紘一 日中友協会長 出席・祝辞

東京華僑総会は九月三十日晚、東京華僑会館で来賓、僑胞併せて三〇〇名が出席する中、祝賀パーティーを催し、中華人民共和国の成立五十九周年と中日平和友好条約締結三十周年を熱烈に祝った。

祝賀パーティーには、文化交渉協会常任理事、

白西紳一郎・(社)日中協合理事長ら各日中友好団体の代表、南昇祐・朝鮮総聯中央副議長ら、および近県各華僑総会の代表らが来賓として招かれて出席した。

潘桂華理事会議長が祝賀会の司会を務めた。

国歌奏楽に続き、主催者代表として挨拶に立った符易亨会長は、「本年は私たちにとって様々な大きな出来事が続いた年であった」と前置きし、胡錦濤国家主席の訪日―暖春の旅に代表される中日関係の修復と健全な発展、北京オリンピックの成功、両岸関係平和発展の急速な進展などのわが国をとりまく喜ばしい情勢について語るとも、四川汶川大地震の被災地の人びとが困難を乗り越え、近い将来みごとに復旧を成し遂げることを確信するとのべた。

符易亨会長はまた、国慶節を目前に控えた二十五日に、わが国が有人宇宙船「神舟7号」を成功裡に打ち上げ、船外活動にも成功したとの朗報は、私たち海外華僑にとって大きな励みである、と強調し、東京華僑総会は引き続き七十万人を擁する在日華僑華人の発展に全力を注ぎ、華僑の互助互恵、愛国愛郷の素晴らしい伝統を継承・発揚し、祖国の繁栄と平和統一、中日友好交流の拡大のため積極的に努力する、と表明した。

孔鉉佑公使は祝辞の中で中日関係について次のように強調した。

この一年来、中日の戦略的互恵関係には大きな発展が見られた。日本の政局にどのような変化が生じようとも、中国政府の対日関係重視の政策はいささかも変わらない。日本側も対中政策を積極的に進めるといふ基調は変わらない」と表明している。

中日平和友好条約締結三十年来、平和発展、協力こそ中日関係発展の主流であり、中日の戦略的互恵関係発展の勢いは逆転することはない。

孔公使は、祝辞の最後、在日華僑華人が愛国愛郷のすぐれた伝統を堅持し、祖国の建設と平和統一、中日関係発展のためこれまで成した貢献に敬意と謝意を表し、在日華僑華人が新しい情勢の下で新たな貢献をされるよう希望した。

席上、当日出席の古稀を迎えた僑胞李智光、楊富華、韋健二、張香代子氏らへ符会長よりお祝いの記念品が贈られ、孔公使を囲んで記念撮影が行われた。

洪維成顧問の発声で全員が国慶節を祝って乾杯した。

祝賀パーティーの半ば、公務多忙の中駆け付けた加藤紘一・(社)日中友好協会会長が僑胞の求めに応じて挨拶に立った。

加藤氏は「先頃日中友好協会の会長に就任したが、私は日中友好をライフワークと考えている。日中両国の協力関係構築と地域の平和は両国の重要な任務である」とのべた。

加藤氏は「これから私たちが果たさなければならぬ任務は大きく重たい。みなさんも日常の団結を大切に頑張ってください」とのべた。

出席者たちは、料理を食しながら愉快地語りあい、共に祖国の建国五十九周年を喜び祝いあった。



2008/09/30



東京華僑総会の国慶節祝賀会で孔鉉佑公使が祝辞

僑胞の求めに応じて加藤紘一・日中友協会長が挨拶

古稀の祝福を受けた僑胞が孔公使(左三)と記念撮影



席上、当日出席の古稀

要な任務である」との